

信越化学工業株式会社

2025年3月期第1四半期 決算説明電話会議要旨

日時	2024年7月26日（金） 16:00 - 17:00
開催場所	信越化学工業（株）
会社側出席者	・代表取締役社長 齊藤 恭彦 ・取締役兼専務執行役員 半導体事業担当 轟 正彦 ・常務執行役員 広報担当 秋本 俊哉 ・執行役員 経理部長 笠原 俊幸 ・広報部長 福井 真二
参考資料	2025年3月期第1四半期 決算短信

* このメモは電話会議でお話した内容をまとめたものです。

【決算概要説明（社長 齊藤恭彦）】

- 2025年3月期第1四半期（4-6月期）
連結売上高： 5,979億円（前年同期比 0.2%減）
営業利益： 1,910億円（前年同期比 0.1%増）
経常利益： 2,198億円（前年同期比 1.2%増）
純利益： 1,440億円（前年同期比 6.3%減）
- 営業利益で前年同期並み、経常利益で前年同期比若干の増益にて当該期を締めくくることができた。

[セグメント状況]

- 【生活環境基盤材料】：
 - ・ 北米国内の塩ビ需要について、4-6月の国内販売は良好。業界統計によれば、同期間米国国内販売は前年同期比で15%、前四半期比で6%伸びた。こうしたことを踏まえ値上げを実施した。6月の住宅着工件数は前月比で3%増え、住宅許可件数も前月比3%上昇し、良い傾向。金利に敏感に反応する住宅需要は、秋以降上向くと見ている。北米以外の市場では、上げられるところで値段を上げている。
 - ・ ソーダの市況は、直近は一進一退だが、値上がりの材料は揃って来ていると見ており、北米では値上げを打ち出した。ソーダ、塩ビとも価格が中心テーマであることに変化なし。
- 【電子材料】：
 - ・ 調整局面からの市場の復調は一様ではなく、品種や用途ごとに、また客先ごとに異なっている。ウエハー需要の回復は口径や客先のウエハー在庫水準により、時期のズレ

があるものの、回復は時間の問題と見ている。露光材料の需要は確実に回復してきている。ウエハーをはじめとする半導体材料の需要回復と技術進化を梃に、収益の伸張を確実に図る。

- ・ 希土類磁石は、HDD 用途の回復が大変強く、FA 用は客先が慎重な見方を堅持しつつも、回復の兆しが見え出している。
- ・ すべての製品について、能力増強を適切に行い、また品揃えの拡充と高度化を推し進めている。
- 【機能材料】：
 - ・ シリコン製品の価格改定に取り組んでいる。加えて、これまでどおり、中国での販売も含めて、当社の強みである機能品・特殊品を伸ばしていく。
- 【加工・商事・技術サービス】：
 - ・ 当セグメントの収益は引き続き安定している。

【今後の見通しについて】

- 今期通年の業績予想を以下のとおりとする。
 - 連結売上高 : 25,000 億円 (前期比 3.5%増)
 - 営業利益 : 7,350 億円 (前期比 4.8%増)
 - 経常利益 : 8,200 億円 (前期比 4.2%増)
 - 純利益 : 5,330 億円 (前期比 2.5%増)
 - 一株当たり
当期純利益 : 268 円 (前期比 3.3%増)
- 本予想に基づき、通期の配当を一株当たり 106 円と予想。
- 引き続き、業績の伸長に取り組む。

【補足説明 (広報部長 福井真二)】

- 2025 年 3 月期の投資額は約 4,600 億円(三益半導体の公開買付の 680 億円も含む)、減価償却費は約 2,480 億円の見込み。
- 2025 年 3 月期業績予想における経常利益の為替感応度は、1 円の変動で US ドルは年間 44 億円、ユーロは年間 2 億円。

【質疑応答】

〈生活環境基盤材料〉

Q	シンテック 2Q (4-6 月) の業績について (ドルベース、経常利益)
A	・ 1-3 月期比では増益、前年同期比 (YoY) ではやや減益の見込みです。

Q	7月以降の米国塩ビの価格動向について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6月まで値上げを通してきて、7月の値上げにも取り組んでいます。8月は競合の1社が値上げを打ち出し、当社も市況の強弱を見ながら検討しています。そういう状況なので7月の値上げは通ると見えています。
Q	米国の住宅需要の見通しについて
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで金利について触れてきませんでした。いよいよ利下げの機が熟したと思っています。住宅需要は、カウンターシクリカルな要素があり、景気が弱まり金利が下がると家がいやすくなるという傾向なので、住宅需要は秋以降上向くと見えています。
Q	米国新政権による塩ビ事業への影響について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新政権による政策の変化は現時点では計りかねますが、当然注目しています。住宅は数百万戸不足していると言われており、全く足りていない状況です。そのため相当数の家が建設されないといけません。また、インフラも色々なところでガタがきているので更新されなければならない。党派を問わず景気を維持し経済成長も継続させようとする点はどちらも変わらないので、あまり心配はしていません。 ・ 環境規制についてはどちらの政権になるかで明らかに強度は違ってきますが、どちらになろうと対応できる準備はしています。
Q	新工場の立ち上げ時期と今期業績予想への織り込みについて
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新工場の建設は遅れてきましたが、この秋に完成させて今年中に立ち上げます。その追い込みを現在行っています。 ・ 遅延の理由は複数あります。一つは、建設期間に天候不良が数回あったこと。それから、当社はアメリカの建設工事を相当数こなしてそれなりに準備をしてきましたが、工事に携わる要員の手当てがアメリカで相当厳しくなっていること。当社は何とか工夫してここまで来ていますが、他社の大きなプロジェクトでも相当な遅延が生じています。さらに機材の納期遅れがあります。当社は余裕率を持って工程を組んでいますが、それを超えるような事象が起きています。万国共通ですが、再生エネルギー等々の導入に絡んで、電気関係の装置・機材の納期が延びています。このような理由で工期が遅れました。 ・ 今期の業績に織り込んではいませんが、収支への貢献は保守的に見えています。

〈電子材料〉

Q	半導体ウエハーの1Q（4-6月）の市場動向について
A	<ul style="list-style-type: none">・ ウエハー市場全体では、数量は前年同期比マイナスでしたが、対前期比はプラスとなり、底打ちの兆しが見えてきました。・ 口径別では、300mm がかなり復調して来ましたが、200mm 以下は1-3月期よりは伸びたものの、前年同期に対しては二桁のマイナスでした。
Q	半導体ウエハーの今期2Q（7-9月）以降の見通しについて
A	<ul style="list-style-type: none">・ AI向けを中心に300mm 需要が上がってきており、Q1（4-6月）に対して、Q2、Q3、来年にかけて徐々に業界全体のウエハー出荷数量は増えていくと見えています。・ 200mm は最終用途需要が弱く、低調な状況がしばらく続くとも見えています。・ 150mm 以下については底這い状態が続いています。中長期的に需要が減少していくので想定線の動きとなっています。
Q	300mm ウエハーの価格の動向について
A	<ul style="list-style-type: none">・ 当社は長期契約の中で価格も決めています。契約価格は段階的に上昇となるものや長期一定のものなど様々です。長期契約価格については変更していません。
Q	半導体ウエハーの地域別投資動向について
A	<ul style="list-style-type: none">・ 当社はリスク分散を考え、国内外で多拠点展開を行っています。今後も設備投資については、一拠点で集中的に能力を拡大するということは考えていません。
Q	半導体ウエハーのAI向け需要について
A	<ul style="list-style-type: none">・ 現在ウエハー市場の回復は主にAI関連が占めています。AI関連については市場が立ち上がったばかりで、ウエハー需要全体に対する比率はまだ高くはありません。来年以降、多くの半導体メーカーがAI向けデバイスの量産を開始し、需要が増えることを期待しています。

〈機能材料〉

Q	機能材料の利益水準が戻っている背景について
A	<p>（シリコン事業について）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 1-3月期に決算調整（製造設備に係る減損損失の計上）をしましたが、それを除いてもある程度の回復が見て取れます。前年同期と比べても数量を戻すことができました。数量の戻りのほとんどが機能製品です。・ 汎用性の高い製品については引き続き市況が悪いので、汎用品の中でも当社

	の色合いを出せるように取り組み、当社ならではの製品をさらに伸ばしています。
--	---------------------------------------

〈その他〉

Q	後工程のパッケージ基板製造装置について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ この新技術に大変期待しています。多方面から問い合わせが来ており、大忙しでご興味、ご関心を寄せていただいているお客さまとのすり合わせをしています。 ・ 半導体の工程の変更になるのでお客さまが慎重に取り組んでおり、具体化されるにはまだ時間が掛かりますが、立ち上がると大きなことになると思います。2027年にはそれなりの結果を出したいと考えています。 ・ シリコンインターポーザが無くなることによる、ウエハーへの影響は大きくないと見えています。

〈全社〉

Q	1Qの業績が会社予想を上回った要因について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全セグメントで上振れがありました。中でも電子材料が伸長しました。4月の予想発表時にはお客さまのウエハー在庫が重かったので、それを考慮して堅めに予想した面もあります。
Q	2025年3月期の連結業績予想について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現時点では通期予想に一過性の要素は織り込んでおらず、堅めに見えています。四半期を追うごとに、さらに伸ばしていく意気込みで取り組んでいます。 ・ 純利益の伸びが経常利益の伸びに比べてやや低めになっていますが、これは特別利益の有無に加えて、税率が若干上がっていることがあります。海外子会社から配当金の受け取りを行うという方針の転換をした結果、税効果が変わりました。 <p>(三益半導体の連結子会社化の影響について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第2四半期から連結子会社となる前提で通期予想に含めています。金額の程度については、三益半導体の2024年5月期の業績から大きな変化はないと見て織り込んでいます。
Q	株主還元と資本政策について
A	<p>(株主還元について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前期から変わったことは配当性向の目安を4割としたことです。

- ・ 長期安定的な配当を中核に、加えて自己株の買い取りも適宜行い、総還元性向も意識しています。今回の通期予想では、増配の割合が1株当たり純利益の上昇を上回っているところも、当社の姿勢として見ていただきたいと思います。
- ・ 子会社で稼いだお金を子会社で再投資する、という当社の方針に変化はありません。その一方で、資金残高を見ながら必要な資金を日本に持ってくることで株主還元がしやすくなるよう、海外子会社からの配当金の受け取りを始めました。

(資本政策について)

- ・ 現金の保有高については、大型の事業投資および企業買収、ショックに対する備え、そして株主還元を念頭に妥当な水準を鋭意検討し、取締役会で議論して今日に至っています。
- ・ 資本効率を十分考慮し、エクイティ・スプレッド*を意識して資本政策を行っていきます。

*エクイティ・スプレッド (%) = ROE (自己資本当期純利益率) - 株主資本コスト